2023年
4月号
NO-95

地域リハビリテーション支援センターだより
（神奈川県リハビリテーション支援センター）

コロナ禍後のゆたかな社会を目指して

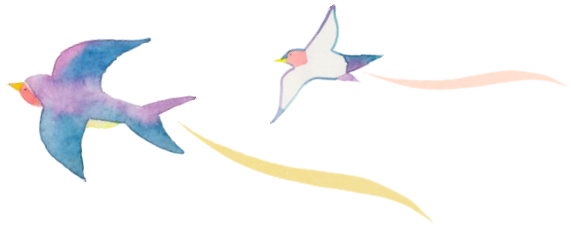
この支援センター便りが皆様に届く頃には桜も咲き終わり新緑が山々を覆い尽くしている頃と思います。新型コロナウイルス感染症が５月連休明けから５類に移行予定となるもウクライナ情勢やエネルギー危機の状態は不透明のままです。この十数年ぐらいを振り返って見ると、国内では数度の震災や被害の大きな風雨水害に見舞われ、少子高齢化・壮年労働人口の減少など将来の日本が直面する課題がある一方、地球規模でも様々な不安材料が山積しております。こんな社会情勢の中、私ども県リハ支援センターの役割である地域リハビリテーションと地域包括システムの充実はより重要性を増しております。

地域リハビリテーションの概念は 1950 年代にデンマークで知的障がい者が可能な限り普通の社会生活を送れるよう配慮する（social inclusion）という排除から共生への考えに始まり 1994 年には ILO,UNESCO,WHO によって Community based rehabilitation の概念が提唱されました。すなわち、障害のある方々が自分の生活する地域社会の中でそこに住む人々と共に社会生活を共にする権利を有するという考え方です。日本でも 1998 年に地域リハ整備推進事業を開始、障がいのある方々への支援と高齢化対策が相まって各都道府県にリハビリ支援センター設置が検討されました。

2000 年に入り、障がいのある人びとや高齢者とその家族が住み慣れた場所で安心して生き生きと暮らせるような地域社会を目指すとして地域リハビリテーションが再定義され、そのための社会基盤の整備として地域包括ケアシステムの構築が国策として推進されてきました。小・中学校区などの身近な地域社会を一つの単位として医療・介護・未病と予防・生活支援・住まいなど全ての人が安心して住み続けられる街作りを目指しています。

各都道府県でも、高齢化対策や障がい者の地域参加から始まりそれぞれの地域の特性に合わせ工夫した包括ケアシステムを展開しております。さらには前述したように、度重なる災害や近年では新型コロナ感染症拡大など多くの困難に地域社会が直面し包括ケアシステムの充実がより一層求められている状況です。支える側（支援組織）と支えられる側（何らかの支援が必要な人びと）が共に生活する場である地域社会の中で安定した生活基盤と地域の支え合いが重要な時代となっています。人間の機能回復という医療的なリハビリテーションを提供することから、地域社会で暮らす人たち全てが全人間的復権を目指してより良く共生できる社会をめざす（社会的リハビリテーション）ことが重要となってきております。

皆さんが住み慣れた街で健康で安心して過ごせる街づくりはこのような時代だからこそ必要と思います。皆さんの身近な生活の中で少しずつではありますが　健康と安心を維持出来るような取り組みの一助になるよう今年度も取り組んでまいりたいと思います。



２０２３年４月
神奈川県リハビリテーション支援センター
所長　村井政夫

地域リハ支援センター 職員紹介

地域支援室メンバー

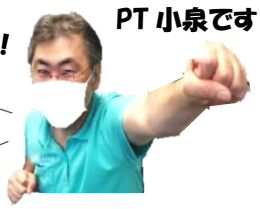
令和５年度の抱負　新型コロナウイルス感染症の影響で地域との係わりも画面を通した形が多くなっていました。本年度は、地域で活躍されている皆様と直接現場で係ることを基に事業を進めていきたいと思います。もっともっと身近な地域リハビリテーション支援センターであるよう頑張ります。
（副所長　磯部）

昨年度より徐々に相談も増えてきています。まずはお電話での相談をお待ちしていますのでよろしくお願いいたします。
（SW　小川）

今年度より地域支援室に異動してきた理学療法士の有馬です。
地域のニーズに応えられる活動を行いたいと思います。
よろしくお願いします。（PT　有馬）

リハビリテーション専門研修は、毎年多くの方にご参加いただき、大変好評です。今年度も地域の支援者の皆さまのお役にたてる研修を企画しております。ぜひご参加ください！
（事務　砂川）

コロナが落ち着いてきた(？)
今年こそ､昨年度よりも活動的に動く１年にしたいと思います。
今年度もよろしくお願いいたします！
（OT　清水）



異動になりました

５年間地域リハ支援センターで活動させていただきありがとうございました。
地域で支援されている方々は、病院とは異なる環境で様々な活動をされています。
今後はこの経験を活かし、地域と病院の架け橋になれればと思います。

高次脳支援室メンバー

高次脳機能障害には包括的な対応が欠かせません。当事者を中心にご家族も含んだ優良なチームを作ることを意識して、メンバーみんなで対応しています。
今年度もよろしくお願いいたします。
（医師　青木）

今年も、地域の皆様と一緒に高次脳機能障害がある方とご家族のサポートができるようにがんばります。
（高次脳機能障害相談支援
コーディネーター　瀧澤）

今年度から高次脳機能障害支援室を兼務させていただきます職能科長の今野です。役割が変わり、戸惑うことも多い状況ですが、職業リハという立場で微力ながらお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。　（職業指導員　今野）

地域リハビリテーション支援センター高次脳支援室のメンバーになりました奥山知子です。若さを生かして頑張りたいと思います。よろしくお願いします。（相談員　奥山）

前年度に引き続き担当させていただきます。長期にわたる回復を見据えた支援ができるよう高次脳障害支援室の他メンバーとともに取り組んでいきたいと思います。よろしくお願い致します。
（高次脳機能障害相談支援
コーディネーター　永井）

この春から自立支援ホームにも関わらせていただくことになりました。私自身新しい環境に飛び込むことになりドキドキしていますが、いろいろな人や場面との出会いが広がることが楽しみです！
よろしくお願いいたします。
（相談員　植西）

高次脳機能支援室のメンバーに加わって今年で３年目になります。高次脳機能障害とともに生活されている方々に対し、心理専門職の立場から支援してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。（心理士　山岸）

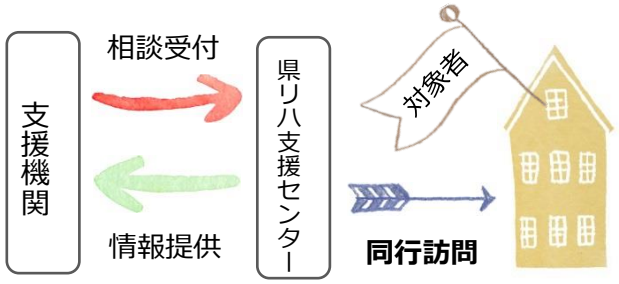
今年度もよろしくお願いいたします！

地域リハ支援センターの事業内容

① リハビリテーション専門相談

「地域の支援者の支援をする」二次的支援機関 として、リハビリテーションに関する総合相談・情報提供・技術支援などを行っています。

相談内容に応じて専門職が同行訪問し、現場で課題解決のためのアセスメントを行います。
高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で安心して生活が送れるように、支援者のみなさま一緒に考えていきましょう！



地域リハ支援センター
☎ 046-249-2602
月～金　9:00～17:00
（相談は**無料**です）

事例紹介：トイレのコールボタンが押せなくなってしまった

疾患の進行により手が持ち上がらなくなり、コールボタンまで届かなくなってしまった。ご本人は押そうとがんばるけれど、そのうちに姿勢が崩れて身動きがとれなくなってしまう。何かいい方法はないかと相談がありました。

① 訪問し、支援者から身体機能や実際の場面での様子を確認し、どんなサポートがあればよいかを話し合いました。

② 棒に突起物を付けたものを設置（棒の下方を押すと突起物がボタンに接触し、コールが鳴る仕組みになっています）。
また、電動車いすで棒部分に接触させる方法でも押せるようで、その日の体調により使い分けていると報告がありました。

③ その後、支援者の方が自主作製し他のコールボタンにも設置。
当事者のみならず他の利用者にも喜ばれているそうです。

２０２２年度の専門相談　総数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷（除くCVA）	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他（切断・加齢等）	不明	合計
県央	13(3)	4	9(1)	2(2)		4(1)	12(4)	5(1)	4(2)	1	54(14)
湘南東部		4(1)			12(2)	1	8	2			27(3)
湘南西部	2	7(1)	4(1)		1	11(4)	6(1)	4	3		38(7)
県西	4(1)	2	3		1	5(1)			1		16(2)
横須賀・三浦	4		2					3	3		12
合計	23(4)	17(2)	18(2)	2(2)	14(2)	21(6)	26(5)	14(1)	11(2)	1	147(26)

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央		6(1)	1		11(1)	8(1)	13(5)		2		10(5)	2(1)	1		54(14)
湘南東部					3	5	13(3)	2	3				1		27(3)
湘南西部		3(1)			7	4(1)	15(5)		5				3	1	38(7)
県西		1	1		1	4(1)		1	5(1)	1			1	1	16(2)
横須賀・三浦				2	6	2	2								12
合計		10(2)	2	2	28(1)	23(3)	43(13)	3	15(1)	1	10(5)	2(1)	6	2	147(26)

（ ）の数字は訪問の件数

上記表は神奈川県の政令市を除いた数字です。政令市からの相談を入れると総数で 180 件以上となります。
2022 年度の傾向として、政令市も含めた視覚障害に関する相談件数の増加がみられました。神奈川県眼科医会の協力を得て、視覚障害・ロービジョンの相談を受けており、県内の各眼科にリーフレットが配布され、認知されてきているものと思われます。 お困りごとがありましたら、ぜひ専門相談をご利用ください。

② リハビリテーション専門研修

地域リハ支援センターでは、医療職・福祉職・介護職の方々を対象とした研修会をさまざまなテーマで開催しています。座学だけではなく体験や実技練習・グループワークなどを交えて、より理解が深まるような工夫をしています。

昨年度もコロナ禍でありながら感染対策にご協力をいただき、無事に全21コースを対面形式で開催することができました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！　本年度もよろしくお願いいたします。

2023年 5月～6月までの研修会予定

1	摂食嚥下障がいのある方への支援 ～薬剤師の関わり方～	5月27日（土）	神奈川県総合リハセンター
2	からだにやさしい介助入門　起居動作編	6月　6日（火）	ウィリング横浜
3	コミュニケーション支援の実際	6月10日（土）	プロミティあつぎ
4	からだにやさしい介助入門　移乗動作編	6月27日（火）	ウィリング横浜

各研修は、研修日の約2ヶ月前からお申し込みを受け付けます。
ホームページのお申し込みフォーム または Fax にてお申し込みください。

平塚市での高次脳機能障害家族相談会

２０２３年３月２日、平塚市のほっとステーション平塚にて「平塚市高次脳機能障害家族相談会」を開催し、ほっとステーション村田氏と家族５名のご参加をいただきました。ここ３年間、ナナの会とともに「親なきあと・8050 問題」について取り組んでおり、実態調査実施やパーソナルノート作成を行ってきました。その中で「家族の入院等による介護者不在時の支援や対応」という課題が見えてまいりましたので、対応として「家族と地域相談支援事業所のつながりを作る」ために本相談会を開催しました。

現在、就労継続支援Ｂ型等の通所施設を利用されている方は当該事業所によるフォローアップをいただけることが多いのですが、就労されている方等は障害福祉サービスを利用されていない方が多い状況にありますので、不測の事態時の相談先を知っていただくために、今後も年 1-2 回程度の頻度で継続して開催していきたいと考えています。

平塚市での高次脳機能障害家族相談会
神奈川リハビリテーション病院　総合相談室
高次脳機能障害相談支援コーディネーター　瀧澤　学

編集後記

早いもので前回編集後記を書いてから１年が過ぎました。戦争の解決出口は見えず、身近には空前の物価高に少子化の問題など先のわからないご時世です。明るい話題って？コロナも含めて穏やかな日が早く来ますように･･･。　（J･O）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎　046-249-2602
Fax　046-249-2601